

# 品川区の生き物たち

せいぶつたようせい いきせんりやくおよ き そ ちようさ  
品川区生物多様性地域戦略及び基礎調査



## 品川区の自然と生き物

都会のイメージがある品川区の「いったいどこに生き物がいるんだろう？」と感じる人も多いかもしれません。

しかし、林試の森公園やしながわ区民公園の林や池、目黒川や立会川、その先にある海辺などに、それぞれの環境を好むたくさんの生き物がいます。また、道沿いの小さな花壇や街路樹などのわたしたちの暮らしの中にあるみどりも、生き物たちは上手に利用しています。みなさんも「品川区の生き物たち」を持って、品川区の自然と生き物を探しにいきませんか。

## 江戸前の魚って？

江戸前の魚とは東京湾（江戸の前に広がる海）でとれた魚のことです。わたしたちの祖先は、古くは縄文時代から、東京湾とそこに流れる川にすむ魚や貝を捕って食べてきました。江戸時代には東京湾での漁業が盛んになり、江戸前寿司をはじめとして魚を食べる文化が発展したといわれています。

## 地球温暖化と生き物

地球温暖化は、自然と生き物にも大きな影響を与えています。品川区でも、本来は西日本など温かい地域にすんでいたナガサキアゲハやクマゼミなどの昆虫が普通に見られるようになったほか、熱帯原産の植物も屋外で冬を越せるようになりました。

ぞうきばやし  
雑木林の生き物



**コゲラ**  
日本で一番小さい  
キツツキ

**ニイニイゼミ**  
しめ かんきょう  
湿った環境を好む  
小さいゼミ

**カブトムシ**  
ふようど じゆえき  
腐葉土と樹液で育つ  
ぞうきばやし  
雑木林の王者

さがしに  
出かけよう!

# 品川区生き物マップ

ていえん  
庭園の生き物



**アズマヒキガエル**

ていえん 庭園の池には初春の頃  
にだけ現れ、それ以外の  
時期は森や庭で過ごす  
ガマガエル

**オオシオカラトンボ**

オスは青白いが  
メスは黄色い  
ていえん 庭園の池を飛び  
回るトンボ

**カワセミ**

ほうせき  
空飛ぶ宝石と  
よ  
呼ばれる  
美しい水辺の鳥

じゅうたくち  
住宅地等の生き物

**凡例**

- 多様な生き物とふれあえる場所
- 樹木被覆地
- 草地
- 屋上緑地
- 裸地
- 水面



**スズメ**

すきま  
都心では建物の隙間などに  
巣を作ることもある  
最も身近な鳥



**ニホンヤモリ**

がいとう  
外灯のまわりで  
よどお は  
夜通し貼り付き  
やしき  
害虫から屋敷を守る  
は虫類

公園の生き物



**カルガモ**

しよか  
初夏には子育てする  
1年中見られるカモ



**オオカマキリ**

かま えもの と  
両手の鎌で獲物を捕らえる  
草地の王者



**アオスジアゲハ**

じゆもく  
樹木や花のまわりを飛び回る  
すじもよう  
青い筋模様がきれいなチョウ

めぐろがわ  
目黒川の生き物



**ボラ**

たまに大量発生する  
えどまえ しゅっせうお  
江戸前のお世魚

**ドブネズミ**

都会の水辺でたくま  
ほにゆるい  
しく生きる哺乳類

うんが  
運河の生き物



**ユリカモメ**

みやこ  
冬になるとやってくる都  
どりよ  
鳥とも呼ばれる品川区  
のカモメ (区鳥)



**スズキ**

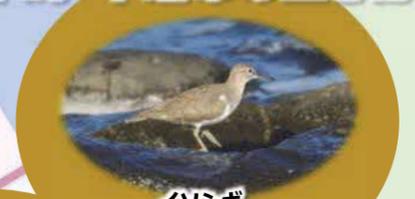
はしげた  
橋桁のまわりでよ  
つ  
く釣れる江戸前  
しゅっせうお  
出世魚



**マハゼ**

つ なじ  
ハゼ釣りでお馴染み  
えどまえ  
江戸前の魚

ひがた かんちようたい  
干潟・干潮帯の生き物



**イソシギ**

いそべ  
磯辺でカクカク小刻みに動き  
ながら歩く小さいシギ



**アサリ**

食べられるだけでなく、海水  
じょうか  
の浄化もしてくれる貝



**クロベンケイガニ**

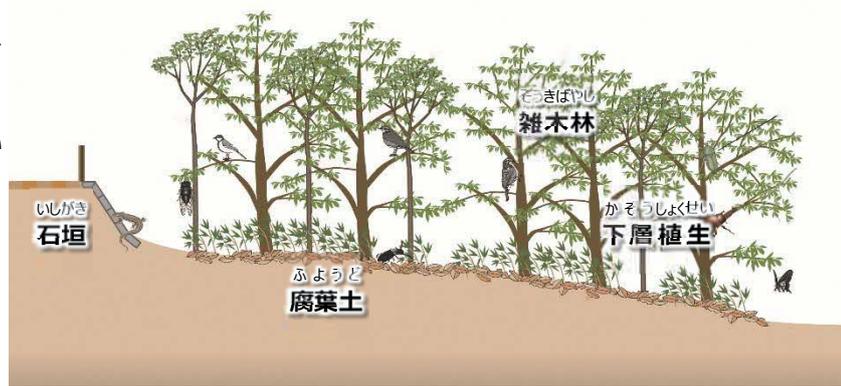
がんべき かつどう  
岸壁で活動する  
ごついカニ

※本地図は「数値地図(国土基本情報)」(国土地理院、2022~2023年)と「みどり率分布図」(品川区、2020年)を加工して作成したものです。

せいそくばしよ だんめんず  
**生き物の主な生息場所の断面図**

りん し もりこうえん  
**林試の森公園**

- 林業試験場跡を利用した自然豊かな公園で、大きく育った落葉樹の林があり、さまざまな植物が生えています。
- 雑木林にすむ鳥や虫などが見られ、中には都会では珍しい野山にすむ生き物が見られることもあります。



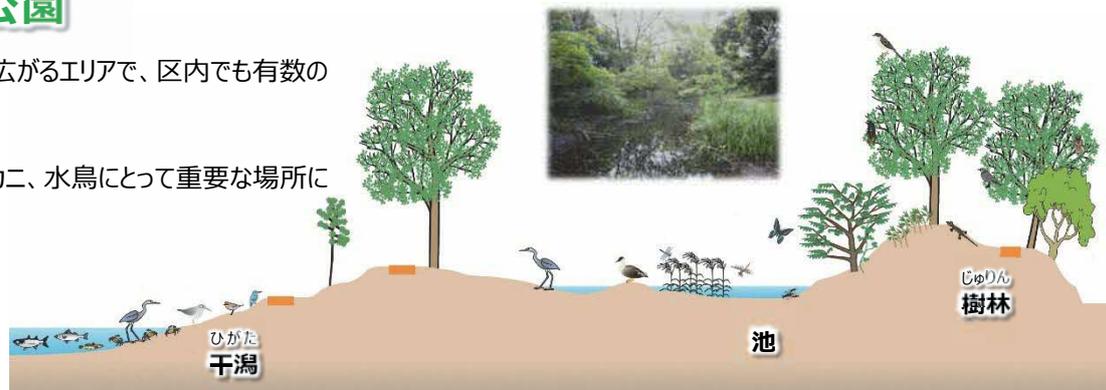
とごしこうえん  
**戸越公園**

- 江戸時代の庭園跡を利用して作られた公園で、人の手により管理されたみどりと共存する生き物が見られます。
- 庭園の池にはトンボや水鳥が見られます。



おおい どうちゅうおうかいひんこうえん  
**大井ふ頭中央海浜公園**

- 運河沿いに整備された森と水辺が広がるエリアで、区内でも有数の野鳥スポットです。
- 干潮時には干潟が出現し、貝やカニ、水鳥にとって重要な場所になっています。



うんが  
**運河**

- 運河や目黒川の水ぎわの大部分は護岸されていますが、石積ブロックの隙間や川底の砂質や泥質にさまざまな生き物がすみついています。
- 潮通りのよい所ではマハゼやスズキなど江戸前の魚が見られます。



# 学ぼう！ 品川区の成り立ちと自然

品川区の北西部は台地に、東部は低地および埋立地になっています。台地の間には2つの川が流れ、海（東京湾）にそそいでいます。

品川区には、公園や学校、川や埋立地などに、街路樹などのみどりや、池や干潟などの水辺といった自然があり、それぞれの環境を好む生き物がすんでいます。

また、開発などにより新しく生まれたみどりや水辺も、生き物たちは上手に利用しています。

※地図は「基礎地図情報 数値標高モデル」(国土地理院、2019～2022年)と「緑被分布図(首都圏)」(国土交通省都市・地域整備局、2007年)を加工して作成したものです。  
 緑被分布図は、国土地理院長の承認を得て、同院の技術資料 D-1-No.393「細密数値情報(10m メッシュ土地利用)首都圏」を利用し作成したものです。(承認番号 国地企調第 376 号平成 20 年 1 月 4 日)  
 緑被分布図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 5000(土地利用)及び数値地図 2500(空間データ基盤)を使用したものです。(承認番号平 19 総使、第 450 号)  
 元データ:©CNES2005/Tokyo Spot Image Distribution



品川区の地形・水系※

# はじめよう！ 自然を守るためにわたしたちができること

生物多様性を守るために、わたしたちにもできることがあります。一人ひとりの小さな行動の積み重ねが品川区の生き物を守るにつながります。



身近な生き物を観察してみよう



環境にやさしい商品を選ぶ



外来種を放さないようにしましょう

# わたしたちができること

- 品川区の自然や生き物に関心を持ち、理解を深めましょう
- 身近な自然と触れ合い、その場所や生き物を大切にしましょう
- 家に花壇を増やしたり、まちのみどりや花を育てたりする運動に積極的に取り組みましょう
- 品川区の自然や生き物を守る活動に積極的に参加しましょう
- 環境や生態系に配慮した商品やサービスを選びましょう
- 外来種の正しい知識を持ち、3原則（入れない・捨てない・拡げない）を守りましょう

# 学ぼう！ わたしたちの暮らしは、自然の恵みに支えられている

わたしたちの暮らしに欠かせない水や空気、食べ物などは、豊かな自然やそこにすむ生き物の恵み（生態系サービス）によって支えられています。これらの自然の恵みは、多様な生き物がお互いに複雑なバランスを保つことによって成り立っており、このバランスを保つ自然の仕組みのことを生物多様性といいます。

しかし、人間による活動が原因で、森や農地（田んぼや畑）が無くなったり汚されたりすることで自然のバランスがずれ、豊かな自然や生き物のすむ場所が失われつつあります。

わたしたちが将来にわたり自然の恵みを受け取れるように、人間の活動を自然や生き物に配慮したものへと変えて行く必要があります。



## 品川区生物多様性地域戦略を策定しました

品川区では2023（令和5）年3月に新しい環境基本計画と合わせて、品川区生物多様性地域戦略を策定しました。

わたしたちの暮らしやすさと生き物たちのすみやすさを両立した「水とみどりがつなぐまち」の実現を目指し、水辺・緑地の保全や緑化の推進、生物多様性の保全・再生に関する取組を進めています。

基本目標 「水とみどりがつなぐまち」を実現する

### 取組

- ① 水とみどりを守り育てる
- ② 水とみどりが身近にある豊かな暮らしをつくる
- ③ 品川らしい水とみどりを継承しまちづくりを活かす
- ④ みんなで水とみどりを育む
- ⑤ 生態系の保全と再生

